

サファリヤン・アルメニア外務次官との面談

2026年2月4日

(一社)ROTOBO

日時:2026年2月4日(水)11:00~11:45

場所:ROTOBO会議室

ROTOBO側参加者:

鈴木恭一 ROTOBO専務理事

輪島実樹 ROTOBOロシアNIS経済研究所 副所長

中馬瑞貴 ROTOBOロシアNIS経済研究所 主任

アルメニア側参加者:

M.サファリヤン アルメニア外務次官

D.マヌキヤン アルメニア外務省多極化政策・開発協力局参事官

E.バグダサリヤン アルメニア外務省アジア太平洋局北東アジア課三等書記官

M.シモニヤン 駐日アルメニア特命全権大使

S.シルカニヤン 在日アルメニア大使館参事官

【面談要旨】

(サファリヤン外務次官)

- 外務省に入省した当時から日本を担当してきたので、今回訪日できたこと、そして ROTOBOを訪問できたことを非常にうれしく思う。
- アゼルバイジャンとのあいだで平和条約締結に向けた動きが進む今、アルメニアはもちろん、南コーカサスは大変関心を持たれている地域である。特に、南コーカサスは、イランなどの中東とロシア、トルコと中央アジアなど、東西南北を結ぶ、文字通りの「クロスロード(十字路)」に位置しており、アルメニアでは「平和の十字路」という構想も進められている。
- 実際、アルメニアとアゼルバイジャンの平和条約はまだ最終的に締結には至っていないが、数ヶ月前にアゼルバイジャンが国境を開放し、アルメニアへのトランジット貨物輸送が実現した。両国の国境は独立以来、30年以上も閉鎖されていたので、非常に重要な転機であった。
- また、アルメニアはトルコとの関係改善も進めている。
- 独立以来、日本がJICAなどを通じて財政的にも、技術的にも支援をしてくれたことについては非常に感謝している。これからはビジネス関係をより深めていきたい。その意味で、2025年2月にアルメニアについての情報を広めるための「日本アルメニア投資環境整備ネットワーク」が開設されたこと、3月にアルメニアのワイナリーによるFOODEX出展を支

援いただいたこと、9月の首相訪日の際にビジネスイベントを開催していただいたことについても感謝している。

- 来月には、昨年以上に多くのアルメニアのワイナリーがFOODEXに参加すると聞いている。
- アルメニアはIT分野のポテンシャルも大きい。群馬県高崎市にアジア初の「TUMOセンター」ができたことは、アルメニアも日本に貢献できるということを示すシンボルになった。またなくインドのニューデリーでAIサミット(2026年2月16~20日)が行われる予定だが、インドのムンバイにアジアで2例目となる「TUMOセンター」が誕生している(2025年11月)。そして、昨今成長が著しいベトナムにアジア3例目となる「TUMOセンター」ができる予定である。
- 2025年には大阪・関西万博でアルメニアの主に文化を紹介することができたことも大きな成果である。
- アルメニアは貿易の多角化を目指していることを強調しておきたい。現在はロシアが最大の貿易相手国となっており、特にアルメニアの主要輸出品の1つである食品の市場としてロシアのシェアが大きい。アルコール(ワイン、ブランデーなど)、チョコレートなどがメインとなっており、新たな市場開拓の機会を日本でいただけすると大変助かる。日本は遠いが、アルメニアより遠くにあるモルドバのワインを輸入し、アルメニアの隣国であるジョージアのワインも輸入している。アルメニアワインの日本での輸入を増やすためにはどうしたらよいか。

(鈴木専務コメント)

- 昨年10月にワイナリー視察ミッションを派遣した際に、ソムリエの方に同行いただいたが、その方がアルメニアワインを紹介するレクチャーをすると聞いている。これは大きな成果だと言えると思う。

(輪島副所長コメント)

- 大使には以前お伝えしたことがあるが、日本の市場を開拓するには少なくとも3年間はプロモーション活動を継続する必要がある。当会としてもアルメニア関連事業の中ではアルメニアワインの流通にプライオリティを置いているので、ビジネスマッチング事業などで引き続き、支援できることはある。(BM事業について説明)

(サファリヤン外務次官)

- アルメニア国内でも貿易促進や輸出振興のための制度が整えられていて、例えば「エンタープライズ・アルメニア」という投資促進機関もある。アルメニアに帰国したら、今後の方針などについて協議してみたいと思う。
- アルメニアの経済、産業にとってアルコールは非常に重要である。ブドウの生産量が多く、ドライフルーツやそのほかの食品の原料としても使われているが、生産量の大半はラ

ンデー、ワインなどのアルコール飲料に使われている。

- もともとアルメニアは、ブランデーの方がワインよりも多く生産されていたが、15年位前から逆転し、ワインの生産量が拡大してきた。その背景にあるのは国外のディアスポラの存在で、彼らがアルメニアワインの魅力に気づき、アルメニアのワイン産業への投資を活発化させた。そのため、ワイン業界の発展が進み、同時に競争が激しくなり、質もとてもよくなっていった。
- かつてアルメニア人は、アルメニアワインではなく、フランス、イタリア、さらにはジョージアなどのワインを好んで飲んでいた。しかし、質が改善されたことで、国産の人気が高まり、その質は今もどんどん改善され続けている。

以上

